

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400179		
法人名	協栄興産株式会社		
事業所名	ふれあいの家 黄金 グループホーム		
所在地	北九州市小倉北区黄金1丁目9番12号		
自己評価作成日	平成27年10月28日	評価結果確定日	平成28年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou\\_pref\\_search\\_keyword\\_search=true](http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>		
訪問調査日	平成27年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地域資源を活かし、地域の方々とのふれあいや、地域行事への参加を行っています。
入居者の皆様が常に安心して生活して頂ける様、全職員が同じ気持ちで入居者様の介助・支援を行っております。
一人一人に合った介護・支援方法を職員同士話し合い、共有事項として統一された介護・介助を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの家グループホーム」は、国道やモノレールからも近くアクセスのよい立地にある、小規模多機能と併設の複合型事業所である。母体法人は福岡市や北九州市内の県内各所でも施設展開をしており、北九州地区でも、合同の研修会や、レクリエーションなどで共同している。近くには公園や病院、市民センターや黄金市場もあり、アーケード街では日常的に買い物や散歩などを楽しんでいる。併設の小規模多機能とも、1Fの交流スペースを活用して、カラオケや、運動会などの合同レクを行い、今年初めて家族も招いて夏祭りを行った。日頃も、入居者一人一人を尊重した丁寧なケアを心掛け、毎日の体操やレク、歩行訓練など手持無沙汰にならないよう、メリハリをつけた支援を行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で運営理念を掲げています。かつ、当事業所にも独自の理念を皆で話し合い理念を決めました。 業務に入る際は、事務所前に掲示された理念に目を通し、実践している。	玄関と事務室に、理念を掲示しており、グループホームの独自理念は、現在の管理者が赴任した2年前に皆と話し合って定めた。「入居者の思いをくみ取る～」 「その人らしく過ごす～」 ことなどを掲げ、今からは新たに組みたい課題として、もう一項目の追加をリーダー職で話し合って検討している。理念に則した半期目標も半年ごとに掲げて取り組んでいる。	理念をさらに事業所全体で共有していくために、掲示だけでなく、振り返り、話し合いの機会が設けられることが望まれる。目標を立てる時などに話し合い、その後も継続的に全体で共有できるような取り組みが検討されることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域交流を図っています。地域交流として、市民センターでの催しに出席、近くの市場での買い物、散歩で近隣の公園等に出掛け、地域の方々とのふれあいを大事にしております。	地域交流として、市民センターでの敬老会や七夕には入居者も一緒に参加している。系列と合同の餅つきは1Fの駐車場でいい、近隣からの立ち寄りもあった。日常的には黄金市場での買い物、公園の散歩などで挨拶を交わし、地域情報は町内会の方や、近隣の掲示板で仕入れている。学童保育児からの饅頭と手紙の差し入れは毎年恒例となっており、入居者も楽しみにしている。	今年初めて開催した夏祭りや、餅つきを近隣の方にも案内して開放していくことが計画されており、年間計画を含め具体的な実現が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の代表の方々に、介護の相談等あれば、声を掛けて下さる様伝えております。今現在は相談等ありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回苑内の実績の報告をしております。 会議での意見も真摯に受け止め、サービスの向上に生かしております。	会議は2ヶ月ごとに、小規模多機能と合同で開催し、町内会、地域包括、民生委員などが参加している。家族にも「ふれあい通信」で毎回声掛けしているが参加には至っていない。会議では事業報告や地域情報などを頂くこともあり、以前は入居者も参加していた。昨年は同日に防災訓練も行った。	議事録への発言者の記載と、配布資料のファイリングが望まれる。また、毎月発行の「ふれあい通信」を使って議事録の報告をしたり、家族参加を増やすために日程の検討や、昼食会的な開催や、行事との同日開催などの企画もなされてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所との連携についてですが、入居相談等承っております。	地域包括からの紹介で入居に至ったケースもあった。生活保護の方の受け入れもあり、担当ケースワーカーとは随時やり取りをしている。最近では入院した方のおむつ給付の件で相談を行った。介護申請時は窓口を訪問しており、季刊発行の「ふれあい便り」は毎回、市や区にも伝えており、空き情報も毎月FAXで報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が新人研修を受けており、その中で身体拘束について学ぶ機会があります。 内部研修でも身体拘束について行っております。 全職員、指定基準を理解しております。	法人の身体拘束廃止委員会があり、年3回の会議に施設長が参加している。施設内の行き来は自由で玄関施錠もない。直近で離設のヒヤリハットがあったが、それ以降はEVの入り口や、各ユニットの入り口にセンサーを設置し、見守りを強化している。身体拘束はしない方針で、法人の内部研修も年に1回あり、言葉かけも含めて理解を進めている。	徘徊ネットワークや、SOSなど、万一の離設に備えて、近隣や地域との協力体制の準備がなされることが期待される。

## H27自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護マニュアルを職員全員持っており、入社時にマニュアルで学ぶ機会があります。虐待等、見過ごされる事無いよう、職員同士の報告・連絡・相談を常日頃から行っております。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護マニュアルにて学ぶ機会があります。権利擁護が必要な場合は、関係者と密に連絡を取り合いできる体制にあります。	新入職時のオリエンテーションや、法人の内部研修でマニュアルを使って学習を進めている。現在、権利擁護の制度活用はないが、以前は2名の利用があり、その際は入居後に家族を後見人に立てて、事業所からも支援した。必要時にはパンフレットやマニュアルで説明し、外部の関係機関とも協力体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、管理者、エリア長が同席し、重要事項説明書等説明しております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っております。アンケートで指摘された事柄は真摯に受け止め、対応を全職員で検討し、即座に運営に反映出来る様努めております。	毎年、法人本部からの家族アンケートがあり、集計、結果報告も行っている。面会でも意見を聞き、最近では所内での職員間の情報共有について指摘を受けた。アンケートの意見では行事を増やしてほしいとあがり、改善に取り組み結果報告を行った。毎月「ふれあい通信」によって行事案内、状況報告を写真付きで詳細にして、家族の安心にもつながっており、今年は初めて夏祭りに家族も招き喜ばれた。	今後も夏祭り以外にも敬老会やクリスマス会など、家族参加の行事も増やされ、家族同士のつながりや、関係が深まっていくことにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員と面談する機会があり、各職員からの意見を直に聞く機会があります。意見や提案を真摯に受け止め、改善の取り組みを行っております。	毎月のカンファレンスで介護手順や方法などを共有しており、年2回目標に関して上司との個別面談もしている。会議に出られない場合は申し送りなどで共有し、レクの企画などは職員から提案、職責に関係なく意見を平等に取り入れている。直近でも入浴時間の見直しについて提案があり取り組みがなされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員は、自己目標を決め、期間が終わると管理者が評価しております。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢等関係なく採用しております。	面談の中で、希望休暇の要望などにも前向きに取り組まれている。職員の年代も男女で20～60歳代まで幅広く、年齢も関係なく能力を業務に活かしている。研修案内、参加もされており、休憩時間や場所の確保もある。外部からの社員も関係なくコミュニケーションを取っており、懇親会や忘年会なども企画されている。働きやすい職場づくりを目指している。	



## H27自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	介護マニュアルで学びました。 また、外部からの講師を招き、研修を受けました。	入職時のオリエンテーションで、マニュアルに沿って倫理規定などに関して伝達をしている。今年は初めて、県の出前講座を依頼して、法人研修の一環で人権学習も行い、時間をかけて地域問題や歴史を含めた幅広い内容の話がなされた。	全般的な人権教育、啓発活動として、近隣の市民センターや公民館などで開かれる人権研修などにも参加されてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人と話す機会を設け、各職員の力量を把握しています。 また、社内研修に参加するよう努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ふれあい会内部での交流はありますが、他社との交流はありません。同業他社と知り合う機会はありません。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の一人一人の声に耳を傾け、不安を取り除ける様声掛けしております。良い関係を築ける様、信頼関係の構築をしっかり行っております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、家族と話し合い、要望を聞き、良い関係を継続する事が出来る様努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問を行っております。御家族または病院の看護師等から聞き取りを行い、必要な支援を見極めております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリ等を取り入れ、全て職員が行うのではなく、入居者が出来る事は入居者にして頂ける様工夫しています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と外出し、外食等楽しめる入居者、病院受診を家族が同行される事もあり、家族と入居者の関係を大事にしております。		

## H27自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑近辺に住まわれていた入居者は、近隣施設へ散歩や買い物等楽しまれています。遠方に住まわれていた方は、ご家族に面会して頂ける様促しております。	遠方の家族に電話を取り次いだり、面会をお願いしたり、一時帰宅や、外泊をすることもある。昔親しんでいたところに、通院の折に立ち寄ったり、黄金市場にもなじみがある近隣からの入居者は、日常的に買い物にも行っている。元の仕事の馴染みで、航空ショーを見に個別ケアで支援したこともあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話すのが苦手な方、コミュニケーションが上手く取れない方等、多種多様な方がいます。職員が間に入り、入居者同士の関わり合いを援助しております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在は、退居された方々とのやりとりはありませんが、退居されたご家族等から連絡があれば、相談や支援に努めたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の思いを把握する様努めています。本人の希望に添える様努力しております。	法人独自で作成した共通様式のアセスメントシートがあり、詳細に記録され、6か月で見直しも行っている。主に計画作成担当者が担当し、入居時には所定のシートで家族から情報提供も受けている。現場の職員がカンファレンスや申し送りで情報も上げており、追記もしている。意思疎通の難しい方は日頃の状況観察や、家族からの情報で意向の把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全入居者の生活歴を把握するよう努めています。独居であった方等は日々の傾聴から今までの生活歴を模索するようしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全入居者は、毎朝バイタル測定を行っております。健康状態を把握する様努めております。異常があった際は、管理者・主任に報告し対応策を指示し対応します。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全入居者、モニタリングを行っております。家族の意向や本人の要望等反映出来る様努めております。	入居者ごとの担当者を決めて、モニタリングと「ふれあい通信」の作成を受け持っている。毎月カンファレンスも行い、状況や情報を話し合い、毎日のプラン実施チェックによってもプラン内容を共有している。プランの見直しは半年で、その際に担当者会議を開き、家族の参加や、必要時には専門職からのコメントも照会している。	

## H27自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全入居者の日々の様子は介護記録に記入しております。 勤務を始める際、申し送りを行い、情報共有を行っております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望等、柔軟な支援を行えるよう努めております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設(市場等)に出掛け、顔なじみの関係を作れる様努力しております。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者は定期的にかかりつけ医に受診しております。家族の意向で変更を希望された場合は診断書を書いて頂き、新規の病院へ通院出来る様対応しております。	以前からのかかりつけ医を継続できるが、提携医の場合は往診もあるため、変える方が多い。目の前にも病院があり、新たにそこを主治医として、歩いて通院する方もいる。定期受診なども基本は事業所から支援し、状態に変化があった際には家族との同行もされている。家族には随時報告もしており、健康管理は併設の小規模多機能の看護師とも協力して取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	場合によっては、かかりつけ医が来苑し、診療して下さる事があり、相談等受けて下さいます。 また、苑の看護師に看護頂き対応して頂く事もあります。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、面会に行く様心掛けております。入院時の状態を聞いたり、情報交換として、カンファレンスを開いて頂ける様努め、関係作りしております。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合っております。入居契約の際も話しておりますが、重度化の傾向が表れてきた際は、家族とお話しし、今後の方針を決めたいと思います。	事業所の看取り指針があり、入居時に指針の説明、重度化の際には改めて同意も得るようにしているが、今までに看取った実績はなかった。今後も希望があれば、できる限りの支援をしていく方針で、提携医の夜間体制もとられている。近隣の系列事業所では対応実績もあり、情報の共有も可能である。	今後の対応体制を作っていくために、ターミナルケアなどに関しての外部研修の参加が検討されることが望まれる。

## H27自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の手順等、全職員がしっかりと把握しております。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っております。非常時の際は、地域の方々の協力依頼をお願いしております。常日頃から、災害時の対応を確認する事を心掛けています。	併設の小規模多機能と合同で年2回の訓練があり、うち1回は消防署が立ち合い、いずれも夜間想定で行っている。参加はないが、道向かいにある饅頭屋に非常時の協力依頼もしている。2Fにグループホームが位置するが、外階段に避難シュートがあり、外からの避難が出来る。昨年は運営推進会議と同日に訓練を行い、町内会、民生委員にも参加してもらった。	非常時に備えて、備蓄物の確保が進められることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者の方々にに対し、常日頃から尊重する声掛けや対応を行っております。	毎月の法人研修の中で、接遇に関して取り上げたり、プライバシー保護の研修も行っている。排泄時のプライバシーや、自尊心を損ないような働きかけを心掛けており、個人情報に関しては写真利用も含めて、用途や可否について項目ごとに可否を確認している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	制限がある声掛け等を行わず、入居者の自由な決定を促すような声掛けを行っております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の場であるので、希望に沿って生活して頂いております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の着たい服等、その人らしく生活して頂ける様支援しております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方が、危険を共わない程度の生活リハビリで、入居者様も参加して頂ける様な工夫をしております。	調理専任の職員がおり、市場などで地元の旬の食材を揃え、日々の手の込んだ料理を、彩り良く盛り付けて提供している。その日のメニューはその日に決め、入居者も下ごしらえやお皿ふきなど出来ることを手伝っている。職員も同じものを一緒に食事しており、美味しい食事を和やかに楽しんでいた。	



## H27自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の水分摂取量や毎食の食事を把握する為に、水分摂取表や食事を記入出来る欄を設け把握出来る様にしております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂いております。介助が必要な方は誘導を行い、職員が口腔ケアを支援しております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自立している方は自力にて行かれます。一部の方は訴えにトイレに誘導し行かれます。他に排泄の訴え等一切無い方に関しては、時間おきに誘導し排泄または、パットの交換を行っております。	各ユニット全員分を、1日1枚のチェックシートで、24時間分管理しており、尿量や水分量も一緒に記録している。後から個人のバイタル表にも転記し、便秘なども合わせて管理している。入院で状態が悪化した方も、支援によって以前の状態に戻せたこともある。排せつ介助も羞恥心に配慮して働きかけ、自分のできることをしてもらっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、体操に参加するよう促しております。更に、各入居者様に応じた対応策を行っております。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっています。13時頃～16時頃までとしておりますが、各入居者の希望に添える様支援しております。	広めの浴室で、3方向介助できる位置に浴槽が置かれ、暖房も設置されている。週3回、昼からの入浴が基本だが、要望や状況によっては午前中での対応も可能である。個浴で、浴槽のお湯は適宜かけ流して清潔にしており、希望するシャンプーや入浴剤などを使うことも出来る。全員、保湿のために保湿剤の塗布もしており、看護師に皮膚観察の相談をすることも出来る。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者が良く入眠して頂ける様、日中の運動量を増加してみたりしております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用を把握しております。処方された薬は薬情をしっかりと確認しております。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握するよう努めております。役割などを与えられる様支援しています。		



## H27自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出として近隣の公園へ散歩等行っております。 他にはレクレーションにて外出しております。各入居者の希望を把握し、どこに行けば皆が楽しめるか考察しております。	近隣への散歩は日常的に行っており、季節の花見に、最近では紅葉を見に行った。年に4、5回は外出レクがあるが、前回の家族アンケートの中で要望があり、今年は外出行事を倍近くに増やした。個別ケアによる外出もしており、以前はカラオケにお連れした方もいた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金に関しては、本社で管理しております。お金を使う際は立替として使って頂きます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと訴えがあった際はして頂いております。手紙も同様です。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①フロア②フロア両リビングは落ち着いた雰囲気作りに努めております。季節の花等飾る事によって季節感を感じれる工夫を行っております。また、レクレーションで作成されたもの等を壁に貼って華やかな雰囲気作りをしております。	ホールにはカウンター式のキッチンと、小さめの4人掛けダイニングテーブルが3つおかれている。車いすが入れる広さのトイレが2か所あり、近いところを使うことができる。廊下も広めで車いすでの移動もしやすい。各ユニットのリビングは中庭と窓に面しており、採光も良い。廊下にもソファが置かれ歓談スペースともなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両リビングにソファを配置し、語らいの場を作ったりしております。入居者同士のコミュニケーションの場です。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全入居者が戸惑いなく生活できる場として、居心地良い環境作りを行っております。各居室はその方の馴染みの物を置いたり、使いやすい配置にしております。	フローリング調の床張りで、介護ベッドと、戸口の棚上収納が共通の造りである。持ち込みも自由で、テレビを持ち込むことも出来る。各居室にはフルネームで額付きの表札が飾られ、カーテンも希望すれば好きなものを選ぶことができる。温湿度計によって過ごしやすい空調管理にも配慮されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	両リビングは安全に生活が送れる様、手すり等設置し、見て分かるように「トイレ」等表示し、迷われる事無く過ごせる工夫をしております。各居室前には表札を掛け迷われる事が無いよう工夫しております。		